

平沢復興大臣記者会見録

(令和2年12月4日(金) 17:20～17:25 於) 三菱総合研究所4階大会議室B)

1. 発言要旨

今日をご覧のとおり、生活再建支援拠点のブロック会議、西日本ブロックですけれども、これを行わせていただきまして、国に対する、あるいは福島県に対する御要望などについて、いろいろ御報告いただいたところでございます。

意見交換の中では、とりわけ避難者一人一人の個別の支援、災害ケース・マネジメントが極めて重要であるといった意見も出されましたし、避難名簿の整理、これはこの前の東日本のときも出しましたが、避難名簿をきちんと整理してほしいということ、それから帰還の支援ですね。帰還したいという方も出てきているようでございまして、こういった方も増えつつある中で、そういった資金的な面で大変に厳しいとか、そういった声もあるようでございまして、そういった帰還の支援をよろしくお願いしたいというような声がありました。

いずれにしましても、こういった声に応えて、しっかりこれから復興庁として取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

2. 質疑応答

(問) 先週、東日本のブロック会議をやって、それに引き続いて西日本ということだったんですけれども、もう少し共通して出た課題ですとか、そういった部分は。

(答) それは全体の問題の全容というか、皆さん方がどこにいて、誰が、被災時に避難されておられる方がおられるのか、そういった方々とのコンタクト、連絡がなかなか取れないという。ですからその名簿をはっきりやってほしいという、これが先週との共通の要望でした。

(問) ほかに何か、西日本特有というか、今日、特有のとかいうのはありましたか。

(答) この前は、例えば帰還したいというのは、横山先生、ありましたかね。この前帰還したいという。

(横山復興副大臣) 東日本ではそういう話は出ていません。

(答) 今日は、帰還したいということが増えつつあるけれども、その方々が帰還したいけれども資金がないとか、いろいろな支援が必要だということで、それに対する支援をしてほしいという声が出ました。

(問) 結構そういう帰還の意向があるというお話は明るい話かなとも思うんですけども、復興庁としてまだまだ支援の継続とかを求めていると思うんですけども。

(答) そうです。ですから支援の継続と、まだ復興庁に対する支援は求めているわけですけども、いずれにしましても帰還したいという方の環境整備、これはしっかりしていきたいなと。

それからもう一つ今日気づいたのは、前回と違って、発言された方の中に、やっぱり帰還された方が、「あなた方もう帰ったらどう」というような、何と言ったんですかね、何かそういうような、いろいろなことを言われるというような、そういったこともあると。

(横山 副大臣) 地域支援につなげたときに、この拠点のほうにまた戻ってくる方たちがいらっしゃるんですね。「何で避難したの」とかというふうに言われてしまってという、そういう人たちがいらっしゃると思いますねというお話がございましたね。

(答) 前は、前はそんなことはなかったですね。

(問) あと、今朝の閣議後会見でも大臣もおっしゃっていましたし、先日の復興特のほうでも、野党の先生方中心に、やはりこの避難名簿の話もありましたが、やはりその全容をしっかりと国としてつかまなければならないんじゃないかという話がありましたが、その部分の必要性については。

(答) そのとおりだと思いますけれども、NPOの皆さん方にそれを全部お伝えするという事になってくると、これはそれぞれの方の御了解を取らないといけませんので、大体のあれはありますし。ですからそれは御了解もいただけるのか。

それともう一つは、相手方がもしそれは嫌だと言った場合には、それは私たちがつかむことももちろんですけども、ましてやNPOの方々にお伝えするという事は、むしろこのままにしておいてほしいと、もうこれ以上この問題で自分たちは関係したくないという方も中にはおられるわけで、だからそういった方々のことを考えると慎重に扱っていかなければいけないなと。しかしNPOの方が言われるのももっともなんで、それのはざまでどうやるかというのはこれからの課題だと思います。

(問) 前回、避難者の方々にもぜひ直接お話を伺いたいなという。

(答) それはやります。

(問) それはもう、いつごろどういう話を聞きたいというのは。

(答) 今度やります。今、調整中で、近々やりたいと思っています。それが一番大事です。

(以 上)